

県外派遣報告書

報告者 中山 好美

- 1 大会名 九州中学校バスケットボール競技大会
- 2 期 間 令和7年8月8日(金)～8月9日(土)
- 3 会 場 1日目:みづま総合体育館 2日目:久留米アリーナ
- 4 振り返り

1回戦 三股(宮崎) VS 折尾(福岡) CC:比嘉(沖縄) UI:川井(鹿児島) U2:中山

○長身選手のペイントエリアプレーに対する見方、考え方の共有

○エッジの見方、考え方の共有

アップの段階から選手・スタッフ・応援者すべてに「勝ちたい」という熱い気持ちを感じられた。関係者席は埋め尽くされ、体育館全体がこの試合を楽しみにしている雰囲気があり、注目度の高いゲームであった。そのような中、このゲームを担当する責任と重圧を肌で感じ、足が震えるほど緊張した。意識したのは「吹き急がないこと」と、「自分のプライマリーをしっかりと見ていくこと」である。この試合では特に2つの改善点があった。

1つ目は、三股のファストブレイクの場面でのファウルコール。私は折尾のディフェンスがドリブルカットを試みた際に、ドリブラーの手に接触があったためファウルをコールした。しかし、映像で振り返ると、ドリブラーはコントロールを失っておらず、かつアウトナンバーの状況もできていたため、ノーコールで流すべき場面だった。結果として赤のファウルを取ったことで、赤にとって有利な展開になり、白が掴みかけていた流れを断ち切ってしまった。ゲームフローを意識し、影響まで見たうえでのノーコールの選択が求められる場面だった。

2つ目は終盤のシーン。折尾がハイポストへのパスを試み、それを三股がカットした(図1)。その後、ボールコントロールを試みた三股の選手に対して折尾の選手の手が絡み、私はファウルをコールした(図2)。三股ベンチからアンスポーツマンライクファウル(UF)のアピールがあったが、通常のファウル(NF)として処理した。映像を確認すると、折尾の選手が明確に三股の選手の手を掴んでいる様子が映っており、UFのC1もしくはC3の可能性があった。私は次のブレイクを見ようと走り出しながらの判定で、OffとDefがストレートランになっていたため、接触が絡んでいるようにしか見えず、確信が持てなかった。カットの瞬間からコントロールまで「ステイして見る」ことで、より正確な材料を得られたかもしれない。



2回戦 唐津第一(佐賀) VS 菊陵(福岡) CC:比嘉(沖縄) UI:中山 U2:松浦(宮崎)

○ベーシックなメカニクスの確認

○コフィンコーナーでのトラップへの対応(チェックイン・チェックアウト)

ゲーム序盤から点差が開く展開となったが、唐津第一はチームでチャンスを作り続けた。一方、菊陵はメンバーを交代しながら最後まで戦い抜いた。前半、菊陵の速攻の場面でレイアップシュートへの接触があり、プロテクト・シューターの観点から、怪我にもつながる場面だったため、セカンダリーではあったが、勇気を持って判定すべき場面だった。

全体としては、映像で確認しても各プライマリーでシンプルに笛が鳴っており、終始安定した試合運びができたように感じた。ただし、個人的には一貫した集中力を保てなかった。その理由は、クロックの管理が曖昧で、メカニクスが大きく崩れる場面があったことにある。ショットクロック成立時に笛を鳴らせなかったり、逆の状況もあった。また、メインクロックを把握できておらず、クォーター終了後に関わらず走り出してしまった場面もあった。

1 試合目は接戦で観客も多く、自然と集中しやすい環境だったが、このような展開のゲームでは自分自身で集中を作っていく必要があると痛感した。今後は、時間が止まっている間に「クロック・ショットクロック・チームファウル・タイムアウトの数」をセルフトークで確認するなどして集中を維持できるよう、実践していきたい。

3位決定戦 純心（長崎）VS 大分（大分） CC：山口（福岡） U1：末信（福岡） U2：中山

○お互いがテーマにしていることの共有、クルーワークの確認

○キープレイヤーの確認とローテーションについて

全中がかかった重要な試合であったが、点差が開いても両チームとも最後まで粘り強く戦い抜いた。PGC で山口さんから「選手の“やっちゃった感”を笛にしていきましょう」という言葉があり、これを意識して臨んだ結果、自分のプライマリーに責任を持ち、落ち着いて判定することができた。

この試合で特に振り返りたいのはCポジションの取り方である。終盤、大分がオールコートで前からプレスを仕掛けてきた場面があったが、私のCポジションがセンターライン付近で、判定には遠い位置だった（図3・4）。このような場面ではフリースローラインの延長線付近で待ち構え、トレイルと連携しながら判定するべきである。攻守が切り替わる際、ただ走り出すのではなく、ディフェンスの動きやゲームの流れを見てステイする勇氣を持ちたい。



5 全体を振り返って

今回で、3度目の県外派遣となった。県中学での振り返りをし、九州大会では「走り出すタイミングを少し我慢し、ステイして何もないことを確認してから走り出すこと」と「後悔しないように、思ったことや感じたことを積極的に判定すること」を意識した。3試合を担当させていただき、どの試合でもクルーワークに非常に助けられた。正直まだ、クロックやタイムアウト、チームファウルの把握といった基本的な部分に目が届かないことも多い。また、ベンチとのコミュニケーションにもチャレンジできなかった。私が気づいている点、気づけていない点ともに、多くの面でクルーに支えられた。そのおかげで、安心してコートに立ち、自分の持てる力を出し切れたと感じている。クルーとのコミュニケーションを取りながら、1つ1つ確認し合い、ゲームを進められたことが、自信と挑戦につながった。

最後になりますが、本大会への派遣をご快諾いただいた原田審判長はじめ鹿児島県バスケットボール協会の皆様に感謝申し上げ、派遣のご報告といたします。ありがとうございました。